

1. 長期展望 (p. 1)

- ① 日本経済は、政府の誤った政策にも関わらず、回復しつつある。
個人金融資産はバブル絶頂期の1,000兆円から1,400兆円にも殖えるなど日本経済の民間の底力が政府の無策にも関わらず回復を成し遂げた。
- ② アメリカ経済の現在の最大の問題は、不動産バブルを如何にソフトランディングさせるかである。
グリーンズパンFRB議長がFF金利を0.25%引き上げるのは、ケリー候補に利する行為。ドル安という代償で米経済は現行程度の成長を遂げる構造。
- ③ 対テロ戦争という第4次世界大戦は今後少なくとも10年位は続く。
半ユダヤ人ケリーが当選すれば米欧連合色濃厚に。ブッシュ再選で、イラク後は、シリア、北朝鮮と対決へ。自衛隊は国軍化し世界に展開。

2. 展望①国内情勢 (p. 5)

- ① ご用済みとなった小泉政権
米の事前了解なき訪朝でブッシュ政権は小泉を見限る。参院選は竹中金融相擁立で保守層から反発。参院選敗北後のポスト小泉は、安倍、藤井、谷垣か。
- ② 三菱自動車スキャンダルの方
三菱・ダイムラーの日独連携を嫌う米軍需産業が仕掛けたスキャンダル。本丸は三菱重工で、日米軍の統合と同時に、軍需産業も日米一体化へ。
- ③ 6カ国協議の内幕
一つの中国政策見直しを始めた米の動向に危機感を持った中共は懸命に北朝鮮を説得。金正日は韓国と日本を押さえたとして慢心。

3. 展望②イラク主権移譲の行方 (p. 9)

イラク暫定政権は「米の傀儡」という批判はあるが、出身部族構成や閣僚人選への評価は高く一定の実績は残せそう。鍵は再登用される旧バース党員の忠誠心の度合いで、政府内の攪乱要因に。イスラエルとクルドの連携も要注意。

4. 展望③プーチンロシア研究 (p. 18)

9・11事件で発生した国際テロという新たな脅威の時代の到来を予測し、備えていた米ネオコンと露旧KGB。プーチン大統領は大国ロシア復活に向け、テロ時代のグランドストラテジーを意識的に発動する唯一の世界的指導者。